

2. 5 Discussion About Global Leaders (英語分野)

(1) 研究開発の課題 (研究概要)

これまで本校の国際交流事業は、希望者を対象としたワークショップや海外派遣事業など一部の生徒が参加するものに限られており、全生徒が直接外国人と交流できるプログラム開発が求められていた。そこで、本年度は授業の中で外国人留学生と直接英語で交流できるプログラムを開発した。

(2) 研究開発の経緯

生徒が直接留学生と会話をする時間を増やすために1クラス10名程度の留学生を招請することを検討した。名古屋大学大学院国際理解教育プログラムに依頼し名古屋大学に在籍する留学生10名(東ティモール、パラオ、ジョージアなど様々な国出身の留学生)を招き意見交換した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説 (ねらい、目標)

英語コミュニケーション力の育成及び、異文化理解を目的として実施した。

イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH 英語発展

対象生徒 普通科2年生理系生徒210名

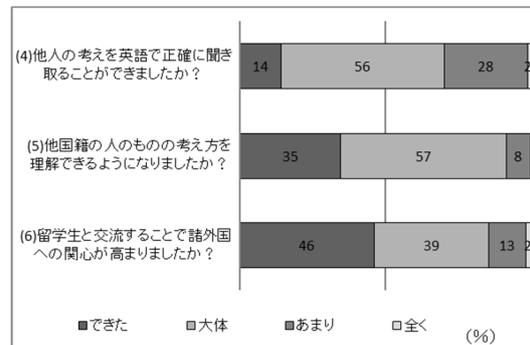
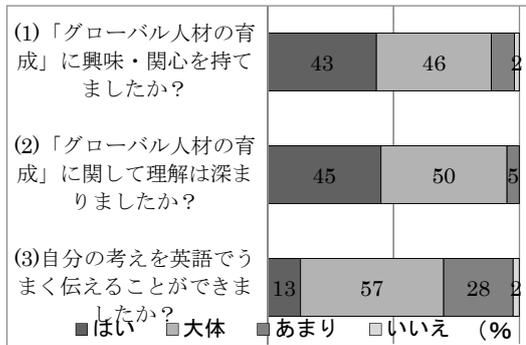
日時場所 令和元年12月3日(火) 桃陵館

実施内容 1クラスを10グループに分け、生徒4人に対し、留学生1人がつく少人数のグループで実施した。「グローバルリーダーに必要な資質・能力とは」「これからの科学技術の在り方」など世界や科学をテーマとし、生徒は事前に準備したプレゼン資料を用いて自分の考えを発表した。発表後にはディスカッションの時間を設けることで考えを深めた。



ディスカッションの様子

(4) 検証 (成果と反省)



生徒の感想から

- ・高校生の時にこのような交流の場があって、貴重な経験になった。もっといろんなテーマを設定すれば、さらなる交流や理解ができると思った。
- ・(英語を)第二言語として話している人たちだったから、自分も頑張ればこうなれると考えると希望が持てた。

アンケート結果や生徒の感想から、参加者の大多数が満足していることが窺えた。また、グローバル人材の育成に関して、理解が深まったと大多数の生徒が答えてくれた。自分の考えをうまく伝えられないところもあったようだが、辞書を使わず生徒自身が持っている知識を生かして伝えようとする姿勢が見られた。異文化理解や英語学習に対する関心が高まったと答える生徒が多く、生徒の関心・意欲を高めるプログラムとして有効であった。